

【中期計画策定の背景】

- ・2022年4月、大阪公立大学設立と合わせ、大阪市大生協と大阪府大生協は合併しました。
 - ・一方、2020年3月からはじまった新型コロナウイルス感染症の拡大は、世界的に大きな影響を与え今日に至っています。
 - ・大学でのキャンパスライフ（授業、課外活動、日常生活など）にも大きな影響を及ぼし、大学キャンパス内の状況は、コロナ禍前と一変しており、しかも元のように戻らないのではないかとされています。大学生協の事業をはじめとした諸活動に与えた影響は甚大で、2020年度（2020年3月～2021年2月）の全国の大学生協の決算は、都市部の大学生協を中心に「キャンパスに人がいない」状態が長く続いたことから、事業剰余▲101.2億円の赤字、当期剰余金▲35.4億円と史上最悪の決算となりました。
 - ・2021年度の全国の大学生協の決算は、▲30億円の赤字、当期剰余金は+6.1億円の黒字でした。黒字の要因は、雇用調整助成金等の事業外収入の増加です。
 - ・こうした状況を受けて、大学生協連は、2021年12月の全国総会にて「大学生協再生基本方針（共済事業譲渡を含む）」を決定しました。
 - ・この「大学生協再生基本方針」では、2つの再生（大学生協経営の「再生」、大学生協事業の「再生」）を通じて組合員のくらしの向上を実現することを目的としています。
 - ・これを実現するために、大学生協共済連の解散、事業譲渡により、大学生協共済連の剰余財産を各生協の出資額に応じて分配することとしました。
- ※共済事業は、その事業の性格上、大規模災害などの事態に備え、一定規模の剰余金を積み立てておくことが求められています。剰余金は本来は共済加入者に分配されますが、多くが卒業などで生協を脱退しているため、加盟生協の出資金に応じて分配されることになりました。
- ・あわせて、各生協では、この分配金を活用して各生協の事業再生について、2022年度中に「再生計画」ないし「中期計画」にまとめ実践していくことが大学生協連から提起されました。

【大阪公立大学生協の状況】

① 生協合併前後の状況

- ・2021年12月に締結した「公立大学法人大阪と大阪市立大学生協同組合及び大阪府立大学生協同組合の包括的な相互協力に関する協定書」に基づき、新大学設立前後からさまざまな部局との協力関係を進めてきています。
- ・2022年4月の両生協合併では、店舗の統廃合は行わず、一部営業形態変更店舗はありますが、合併後も変わらず生協をご利用頂くことができることを優先に運営しています。

②経営状況

※以下の数値のうち、2021年度以前は大阪市立大学生協、大阪府立大学生協合算の数値です。

(単位：万円)	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度予算	2022年度	21/19実績比	22予算/19比
供給高	212,632	207,949	208,379	143,019	154,889	157,466	152,072	74.3%	75.6%
事業総剰余	52,357	20,717	52,034	28,620	35,157	40,382	37,318	67.6%	77.6%
人件費	34,247	33,830	33,103	26,432	24,773	26,781	24,354	74.8%	80.9%
物件費	19,918	19,543	19,438	14,802	15,431	17,211	17,309	79.4%	88.5%
事業剰余	▲1,808	▲2,656	▲506	▲12,614	▲5,047	▲3,609	▲4,346	997.4%	713.2%
経常剰余	192	▲809	1,707	▲8,278	▲1,471	▲3,204	▲3,651	-86.2%	-187.7%
特別利益	1,474	1,887	924	4,813	3,587	0	12,928	388.2%	0.0%
当期剰余金	1,531	942	2,418	▲3,600	1,979	▲3,304	6,975	81.8%	-136.6%
累積剰余金	▲11,822	▲10,881	▲7,463	▲12,604	▲10,084	▲13,425	▲3,109		
出資金	44,500	43,961	44,292	41,447	39,327		44,267		
自己資本比率	39.2%	40.6%	43.8%	38.7%	34.4%		42.7%		

・2019年度までは、供給高合計20億円超でしたが、事業剰余段階で赤字、その後特別利益などで黒字にするという構造です。但し、旧府大では事業剰余段階で黒字を達成しており、主に旧市大の事業構造（特に労働分配率が70%に近い構造）に課題がありました。

・2020年度からはコロナ禍の影響でキャンパスロックアウトなど通常営業ができない状況でスタートしました。2021年度後期からようやく対面授業が再開されましたが、非常に厳しい利用状況でした。スタッフの雇用を守る観点から雇用調整助成金等の制度も活用しましたが、2020年度は約3,600万円の赤字、2021年度は1,979万円の黒字まで回復しました。

・2021年度末、両生協合併直前の累積欠損合計は100,542,106円と、1億円をわずかに超える金額となっています。旧市大・旧府大共にほぼ同額の累積欠損がありましたが、旧市大は経営状況の悪化に伴い累積欠損が増えていく傾向、旧府大は食堂投資などによる過年度の累積欠損を単年度剰余を出しながら解消していく過程、と状況は異なりました。

・2022年度は当初計画より食堂やフードコンビニの利用が戻らず、供給高もさることながら利益率の高い分野の減速が影響し、供給剰余の減少率が高くなっています。一方生協業務システムの更新に伴うレジシステムの更新（約1,700万円）なども予定していますが、より一層の経費節減などにより、事業剰余段階で予算から約700万円悪化した4,346万円の赤字となりました。

・2022年度末に実施された大学生協共済連の解散・事業譲渡による大阪公立大学生協へ分配される残余財産は、約1億2千万円でした。

・残余財産分配により、累積欠損は3,109万円となりました。但し、22年度の法人税のうち、共済連残余財産分配の際に源泉徴収されていた所得税約2,100万円は2023年度還付されますので、実質の累積欠損は約1,000万円となります。

・この残余財産分配は累積欠損を解消させるためだけではなく、将来に対する投資の減資として活用するべきです。決算上積立金等はできませんが、残余財産分配の一部を投資に活用し、どの分野に重点的に取り組んでいくかなどの計画が必要です。

【大学・組合員から期待されていること】

この間、学長インタビューや組合員アンケートを実施しました。

・学長インタビューでは、全国の共同で事業を進めていることをご承知の上で、その中でも公立大ならではの大学生協事業の展開、例えば学生提案メニューの採用などを期待されました。

・また、多キャンパス展開となった公立大で、キャンパス再編に応じた大学生協への期待も頂きました。その中には小規模キャンパスの運営に関する課題もありますが、大学と連携して取り組んでいくことをお話いただきました。

・合わせて、森之宮新キャンパスでの公立大生協に対する期待も高く、引き続き各種連携を進めていくこととしました。

・組合員アンケートからは、学生生活をより豊かにする柔軟な事業活動を期待する声が多くありました。その中でも健康と安全の事業や取組に関する期待が大きくありました。

・具体的には、食の分野を中心に充実を求める声が大きく、この声にどう答えるかが問われます。

【大学の今後の具体的な動きと生協の関わり】

・2025 年後期開設予定の森之宮新キャンパスについては、前述のように大学生協への期待は高く、福利厚生施設の設置計画などで協力関係を築くことはできていますが、実際に公立大生協が福利厚生施設を運営できるかは、確定事項ではありません。

・まずは食堂・売店・カフェの運営を大学生協で行う事ができるよう、交渉を続けます。

・また、森之宮新キャンパスでは、「スマートキャンパス」を旗印にさまざまな先進技術の導入が検討されており、公立大生協がどのような役割発揮するかご期待頂いていると考えています。「大学生協アプリ」や「生協電子マネー」を軸に、一定の投資も検討しながら、スマートキャンパス（特に混雑が予想される昼食問題を解決するための「スマート昼食」）にコミットしていきます。

・この森之宮新キャンパスは 1 年生、一部 2 年生が通学するキャンパスとなっており、それは杉本・中百舌鳥両キャンパスの在籍学生数減をもたらします。両キャンパスでどのように事業を縮小していくかが問われます。大学・組合員としっかりコミュニケーションを取ることが大事です。

	現在	2025 年度	2028 年度	比率
杉本	7,400	3,800	3,100	▲58.1%
中百舌鳥	6,200	4,700	5,300	▲14.5%
阿倍野	1,000	1,400	1,400	+40.0%
森之宮	-	5,400	5,400	-

※ヒアリングなどから公立大生協での独自試算

・一方、2026 年以降予定されている高専の中百舌鳥移転により、一定数中百舌鳥キャンパスの在籍学生数が増加します（1 学年 160 人×5 学年）。大学生とは違い、どのようなサービスを公立大生協が提供できるかは調整が必要ですが、この間の懇談では高い期待を頂いています。

・このような環境の中、供給高を 19 年度以前の両生協合算のレベルまで戻し、健全経営を実現する事が、合併認可申請時の計画書との関係でも必達目標です。

【大阪公立大学生協 中期計画】

上記の概況を踏まえ、大阪公立大学生協として、中期計画（再生計画）を策定します。

「for OMU プラン」と題し、学生や教職員、大学・高専とともに、大阪公立大になくってはならない生協になるため、下記の3つの柱を中心に進めていきます。

○学内循環型経済の実現	On Campus Circular Economy
○経営的な指標の設定	Management Index Monitoring
○大学への貢献	University Comprehensive Service

<学内循環型経済の実現>

「学内循環型経済」とは、生協合併前に大学の皆さんと協議したときに提唱した、公立大生協のありたい姿です。

- ・学内の皆さんに公立大生協をご利用頂き、大学生協は健全経営を元に剰余を出します。
- ・その剰余は、大学、組合員、スタッフに還元しますが、特に大学には学生支援・福利厚生の実現に資する形で還元します。
- ・大学は、その還元を元に、よりよい学内学生支援環境を整備いただき、キャンパスの魅力アップに繋がります。
- ・そのキャンパスで学ぶ学生が生き活きと学生生活を過ごし、生協をご利用頂きます。
- ・また、学生の雇用も公立大生協内で産み出し、安心できる職場環境で経済的自立を促し、より良い学生生活を過ごし、公立大生協をご利用頂くというもう一つの循環も目指します。
- ・これらの実現のために、毎月大学との定例協議を実施しているところです。

<経営的な指標の設定>

この「学内循環型経済」を実現するためには、言わずもがな公立大生協が累積欠損を解消し、健全経営を行う必要があります。

そのために、経営的な指標を設定します。

- ・供給高をコロナ禍前の2019年度実績に近い21億円を目指します。
- ・その上で、供給高の1%の当期剰余を残します。供給高21億円ですと、2,100万円の当期剰余です。
- ・「供給高の1%の当期剰余」の実現で、早期の累積欠損解消と還元ができるようになります。

実現に向けて、

- ・組合員からの要望の高い、「食」の分野を重点課題として取り組みます。
- ・「食」の利用結集を進め、フード分野の収益向上を目指します。
- ・メニュー展開だけでなく、決済方法（ミールの仕組み）なども研究を進めます。
- ・また、全体的には利用者の声を聞きながら、店舗毎はもとより、事業毎に細分して全店舗で点検し、効率化を進めます。
- ・事業計画

2024年度に単年度での収支均衡を達成し、2025年度には一旦森之宮キャンパス店舗への初期投資が発生しますので赤字化を見込みますが、2026年度に累積欠損の解消を目指します。

単位：百万円	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
供給高	1,557	1,700	1,850	2,100	2,100
事業総剰余	391	443	476	520	520
当期剰余	7	16	▲11	34	33
累積剰余	▲23	▲6	▲17	16	49

<大学への貢献>

- ・まずは2025年森之宮新キャンパスの店舗運営準備を進めます。
- ・新キャンパスでの一番の課題は「昼食需要問題」です。約7,000人のキャンパス人口で、どのように昼食需要をまかなうのか、さまざまなアイデアで解決しなければいけません。
- ・スマートキャンパスへのコミットメントを推進します。
- ・2022年度新入生学生証からは、学生証内に「生協電子マネー」機能を搭載することが実現しました。これは学生組合員の利便性向上（財布を持たなくても、チャージがされていれば生協食堂・店舗を利用できたり、ミールクーポンを利用できる）に資することになり、公立大での決済インフラとしての認識を大学から頂いています。
- ・2023年1月からは、学生証に加え「大学生協アプリ」でも「生協電子マネー」決済が可能になり、加えてチャージの利便性も上がりました。
- ・「生協電子マネー」や「大学生協アプリ」などの新システムを活用し、また必要に応じてシステム投資も検討し、アプリを活用したテイクアウト弁当予約など今までになかったソリューションを提供し、大学生活を支えます。
- ・既存キャンパスの今後については、各キャンパスでそれぞれ表情が違います。しっかりコミュニケーションを取りながら、大学への貢献と公立大生協の持続性が両立できるように進めます。

【for OMU プランを達成するために】

- ・コロナ禍前の経営状況にはまだ戻っていません。その意味では、まだ経営の危機に瀕しています。この現状を認識しながら、キャンパス環境の変化にしっかり付いていき、これをチャンス捉えて新しいチャレンジをする事が必要です。
- ・何よりも、私たち大学生協だからできること、それはその大学の組合員や大学そのものに寄り添うことです。
- ・私たちが考える大学生協の「理想の姿」とは、「大学・組合員（学生・教職員）・生協の三位一体の成長」です。
- ・私たちが考える大学生協の「価値」とは、「大学そのものへの『貢献』」「大学に関わる皆さんへの『貢献』」です。

皆さんと一緒に踏み出しましょう。